

J Rの業務外注化と非正規雇用化に反対するニュースです。感想や意見、現場の情報をお寄せ下さい。info@doro-shien.site

京葉車両
センター

機能保全業務外注化を許すな

鉄道の安全を破壊する要員削減と外注化



J R東日本は、武蔵野線で使用されているE231系(272両)、209系(88両)の機能保全業務などを、千葉鉄道サービス(CTS)へ外注化する提案を行っています。これに対し、勤労千葉は団体交渉を行い、現場の安全と労働条件を守る立場から、提案の白紙撤回を強く求めています。

団体交渉の中で、会社側は今回の外注化によってJ Rの要員を3人削減する方針を明らかにしました。しかし、その根拠と安全対策には多くの疑問が残されたままです。

数ヶ月の教育で業務できるのか

会社側は、CTSからの逆出向者に対し数ヶ月の実習を行ったことで「機能保全検査はできる」と回答しています。しかし、検修業務は数年に一度しか発生しない故障への対応など、高度な熟練が求められる仕事です。短期間の教育で、検査長が担う電源操作などの危険業務を含め、責任を持つて遂行できると考えているのか。

要員不足による外注化の破綻

勝田車両センター(茨城県)では、委託先での要員確保が困難になったことで、倉庫業務の委託を解消し、J Rに戻さざるを得なくなった事実があります。グループ会社の低賃金・労働力不足という現実を無視し、無理な外注化を強行すれば、現場に過度な負担が押し付けられるのは明白です。

技術継承と安全の崩壊

会社側は「効率的な体制」を強調しますが、その実態は現場の切り捨てです。外注化による業務の分断は、これまで培われてきた技術の継承を断ち切り、重大事故を招く要因となります。社長自らが「外注化は破綻している」と認めざるを得ない状況にありながら、なぜ京葉車両センターでさらなる外注化を強行するのか。

鉄道業務の根幹である「安全」を軽視し、現場の誇りを踏みにじる提案を断じて認めることはできません。

【4月1日の行動方針】

■京葉車両センター 門前抗議行動

8時〜 京葉車両センター 門前

■CTS本社抗議行動

10時〜 CTS本社前